

嗚呼青春の

(昭和五年寮歌)

児山信藏君 作歌

有村徹君 作曲

一

嗚呼青春の夢高く
理想のあとに憧憬れて
楡の花散る学都にぞ
啓示を求む若人は
綺花を流して逝く水に
十九の春を嘆くなり

二

牧場の緑草踏みしだき
栗毛の駒に鞍置きて
うち振る鞭の音も高く
希望の天空を朗らかに
寮歌を歌ひつ眺むれば
白雲流れゆく手稲山静か

三

学堂の古鐘の沈みゆき
楡陵の蒼空に銀月冴えて
羊の群れの片影もなし
沈黙の原始に散りしける
落葉踏みゆく雄き子は
三年の絢夢に涙する

四

疎林のほとり夕陽は落ちて
罌さへも絶えし真夜に
涯なく白き石狩の
銀雪に連なる曠野の静寂
震はせ乍ら橈唄は
神秘の闇を縫ひてゆく

五

北斗は遠く七星清し
「妄執」の現世を見下して
真実一路の迪恵ぬ
「意気」と「血潮」に生くる子の
瞳に燃ゆる紅焰は
永遠なる生命の証なり